



5月26日 永代経法要「瀕畑僚一師

しんらん同人

No.551

7・8
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

オリンピックの入場券抽選結果発表！希望する競技のチケットが入手できた人。残念ながら外れた人。思わぬ高額のコストに一喜一憂する人々。連日報道するマスコミ狂騒曲も一段落しましたが、皆様はいかがでしたか。

お寺でも、家族や遠方からいらつしやるお同行のお役に立てればと考えましたが、自分達以外への譲渡は禁止とのこと。それではどの競技に興味があるかと自問すれば、日本人が当日出場しているかどうか分からない現状では特段の種目が浮かびません。結局折角の地元開催ですが、インターネットへの登録さえもせずに、テレビ観戦派に徹する事といたしました。ただし、期間中の宿泊は可能な限り受け入れられます。もしも宿泊予約などが出来なかった方は、素泊まりを覚悟で来寺下さい。本堂で雑魚寝するのも良い思い出となることでしょう。

七月八月は各地でお盆法要が行われます。お盆は正式には「盂蘭盆（うらぼん）」といい「逆さに吊るされたような苦しみ」という意味の梵語「ウランバナ」を音訳したもので、お釈迦さまのお弟子の目連尊者が餓鬼道で苦しむ母親を救おうと、お釈迦さまに教えを請うたのがお盆の始まりとされています。

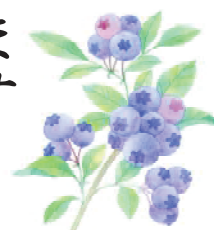
浄土真宗におけるお盆は、先立つた方々を偲びつつ、私自信が真実のみ教えに出逢わせていただく大切な縁です。

お浄土へ往生された方々は、仏さまとしていつでも私たちとともにいてくださり、阿弥陀さまのみ教えに出逢うことを願っておられます。心静かにご聴聞のひと時をお過しください。

(一部 伝道資料センターより引用)



おかげさまで、 ありがとうございます



「お寺で話を聞いていると、段々自分がつまらぬものとなって、情けなくなります」といった人がいます。それこそ真実を聞いている姿です。教えに遇えますます自分が知られて数限りなくとんでもないことをしたと気づかされます。だがその傷ある私を、「迷いの底に沈むものを浄土に迎え取って仏とならせたい。もしそれが出来ぬなら仏とはならぬ」とお誓い下さるのが阿弥陀仏のご本願です。

唯円坊は申します。「故聖人が『阿弥陀仏が五劫の間、思惟してお立てになった誓願をよくよく考えますと、全くこの私を助けんがためでした。思えば多くの罪を持ったこの身を助けようと思いつて下さった本願のなんと有難いことでしょうか』と、いつも仰せられていたお言葉を思い浮かべますと、善導大師が『私はいま現に罪悪を犯し、生死の苦海に迷っている凡夫であり、想像もつかぬほど遠い昔から今日までいつも迷いの世界にさまよい、いつも罪悪にまみれている、迷いを離れる因縁のない身と知りなさい』と言われた、あの不滅の聖語と少しも異なっていない。そうしますと、聖人のご述懐は、罪悪の深いのも、仏のご恩の高いのも

知らずに迷っているのを気づかせようとなさったのです」と。

これは私たちのするはからいではありません。人のためではなく、自分がよくいわれそうなものだと思うやり方しか出来ない私だから、阿弥陀仏がひとえに、この私を救おうとなさっている世界が受け取れないのです。

浄土の教えをいただき、大きな慈悲の中にありながら、様々な条件を考えます。

救って下さるからといっても、ただではそうもいくまいと念仏を沢山唱えたら救われるとか、死ぬ時になって心静かに慈悲を念ずれば浄土に生まれられるなどと、自分のはからいを加えたりします。

このごろお寺に参り身を入れて聞くようになったからもう大丈夫と思ったりします。そんな心で救われるでしょうか。救わずにはおかぬと呼びかけて下さるのがお慈悲です。まったく条件がありません。

そういう世界を受け取れずに自己が中心になって、こうしたから救われるだろうと考えます。

仏の大悲にすべてを任せきってしまう、それが南無阿弥陀仏です。念仏したからではなく、どうにもならぬ私を、救わずにはおかぬとお誓いくださって阿弥陀仏となられたのですから。

皆様がお参りしている阿弥陀さまは、お立ちになり足を半歩

前にお出しになっています。

迷いに沈んでいるものに向かって「あ、危ない」という慈悲のお姿を現しています。

そして右手は上に、左手は下にしておられます。これは阿弥陀仏となられた時のお姿で、右手は智慧と光、左手は慈悲と命を表します。

私たちは自分は立派なのだ、間違いはないのだと思つていても、光に遇うとこれほど間違いがあつたのか、こんなに浅ましい心だったのかと迷いの元が我が身にあつたことが少しずつ知らされます。

立派だから、頭が良いから、金持ちだからというのではなく、お金があるうとなかろうと、頭が良からうと悪からうと、女だろうと男だろうと、善人だろうと悪人だろうと、そのまま救い取つて下さるのがお慈悲です。

愛という言葉がありますが、慈悲は愛ではありません。こうしてやったから有難うといいそうなものとか、私の行為にお返しがあつたかなものとか、なにかしらの条件を持つのが愛情です。

それに対して、お慈悲には、こうしたから、立派になつたからという条件は一切ありません。

どんなあやまちがあつても決して捨てないぞ、必ず救わずにはおかぬというのがお慈悲です。

そのお心をいただければ無限の智慧によつていまの生活が照らし出され、無限の慈悲によつてどれほど浅ましい心で日暮らしして

も、仏の大悲は私を抱きとつて下さるのだという世界を知らせて下さいます。

文句のつけようがない、すべてが完全に出来上がったお姿が阿弥陀仏です。

困つたときに「何とかしてください。助けて下さい」そんなことを願つて拝むのはおかしいのです。

阿弥陀さまの前で、南無阿弥陀仏とお念仏申すときは「おかげさまで、ありがとうございます」と、力づけられて今日を生かせていただく喜び以外にはありません。

世間では、寺へは若いうちは行くことはない、年をとってから参ればよいといいます。年があるとしたらいくつからでしょうか。

なかには亡くなつた人の供養をしてもらう所と心得る人もいますが、すくなくとも真宗は違います。

向こうに何かをあげるのではなく、恵まれていることに有難うございましてお礼申し上げる所です。

ご高齢の方が「仏さまのおかげです」とお念仏を喜びながら話されますことはうれしいことです。追い詰められずに、大悲に抱かれて喜ばれることは、その人自身の幸せであるとともに、周りの人々も幸せです。

近頃は、身体の治療には注意を払っていますが、心に薬をやるのを忘れてるようです。念仏という尊い薬があるのですから、その薬をいただいて心身ともに元気な毎日を送りましょう。

【ご法座等のご案内】

7月

7・14
(日)

■午前十時

孟蘭盆会法要【武田正知師

■正午

医療相談【佐藤公彦医師

7・21
(日)

■午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

7・28
(日)

■午後一時

定例法座 祥月命日合同法要

【大野孝顕師

8月

8・11
(日)

■午前十時

定例法座【古賀住職

8・18
(日)

■午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

8・25
(日)

■午後一時

定例法座 祥月命日合同法要

【金安一樹師

編集後記

毎年のことながら暑夏を訪れを前にすると、冬が懐かしくなることです。今年も無理をしないで過ごそうと思いますが・・・

一方で「夏休み到来」嬉しいことに福岡から孫たちがやってきます。あそこにもここにも一緒にいきたいと予定表を準備し、上京の日を指折り数えています。

高齢者による自動車事故が多発しています。私も十月の運転免許の更新を前に高齢者講習を受講しなければなりません。本当に自己過信は厳に注意しなければなりません。

本堂周りの網戸を改修し風通しが良くなりました。おかげでお花の日持ちが少し良くなると坊主が大に喜んでいます。

山梨や名古屋はじめ遠方からお同行がお寺にいらしゃるようになりました。うれしいことです。

無理をお願いするとしたら、前日でもその旨お電話をいただければ助かります。

